

芦田川流域下水道に係る施設事故について

1 要旨

芦田川流域下水道の下水道管に設置した開閉装置（ゲート）が全閉したことにより、福山市公共下水道施設から汚水が流出した事故の対応を報告する。

2 事故の概要

(1) 経緯

令和5年1月31日（火）	16時頃	住民から福山市に対して汚水が流れにくい旨の連絡あり
	17時頃	福山市から県に連絡あり
	18時半頃	芦田川流域下水道の下水道管（沼隈幹線）のマンホール内の水位上昇を確認
	19時頃	福山市が影響区域の市民に下水道利用制限について広報を開始
	20時頃	バキューム車によりマンホール内の汚水のくみ上げを開始
	22時頃	マンホール内の河川水逆流防止用の開閉装置（ゲート）が全閉していることを確認
2月1日（水）	1時頃	応急対応として開閉装置（ゲート）を開放し、通常の汚水の流れを回復

(2) 影響区域及び世帯数

- ・ 区域：福山市水呑町、田尻町、鞆町、沼隈町、草戸町半坂及び明王台の一部地域
- ・ 世帯数：約8千世帯（人口 約1万8千人）

(3) 被害状況

福山市が現地確認した汚水の溢水（いっすい）件数
7件（福山市水呑町 2件、福山市沼隈町大字草深 5件）
※溢水箇所については、福山市において、清掃及び消毒作業を実施

3 原因調査等

令和5年2月2日から開閉装置（ゲート）の動作確認や専門業者による開閉装置の分解等を行うとともに、過去の点検記録の確認等により、原因調査を実施している。

また、当該開閉装置は、令和5年1月26日（木）実施の定期点検において、電気系統の不具合があり、修繕の手配をしていたことから、今回の事故との因果関係も調査している。

なお、流域下水道施設において同機能を有する開閉装置（3カ所）については、2月2日に動作確認を行い、異常がないことを確認した。

4 今後の対応

原因究明及び調査結果を踏まえた再発防止に取り組んでいく。

【位置図（芦田川右岸マンホール）】



【芦田川右岸マンホール内（ゲート室）状況図】

